

第三種郵便物認可
 スウェーデン社会研究月報 昭和53年12月25日発行 第10巻第12号 毎月1回25日発行
 編集責任者 高須裕三
 発行所 社団法人スウェーデン社会研究所 定価200円

発行所 (郵便番号100)
 東京都千代田区丸の内2-4-1
 丸の内ビルディング781号室
 社団法人スウェーデン社会研究所
 Tel (212) 4007-1447
 編集責任者 高須裕三
 印刷所 関東図書株式会社
 定価200円(年間購読料参千円)
 1978年12月25日発行
 第10巻 第12号
 (毎月1回25日発行)
 昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol.10 No.12

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
 (The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
 Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

スウェーデンの福祉と生活の質

Well-being and the Quality of Life in Sweden

理事 中央大学教授 丸尾直美
 Prof. Naomi Maruo

「ビジョン誌」による生活の質の国際比較

スウェーデンは高福祉と高生産性とを兼ねそなえた国として評価が高かったが、1977~78年には経済停滞と国際収支に悩まされ、その評価も幾分落ちた感がある。

しかし、それでもスウェーデンが総合的にみて福祉と生活の質の高い国だと評価は変わらないようである。最近、『ビジョン』という雑誌がヨーロッパ諸国の生活の質の比較を試み、その結果、スウェーデンはこの「生活の質オリンピック」に優勝している。この雑誌は、アカデミックな雑誌ではないので、統計のとり方や得点の出し方、集計の仕方などかなり問題はある。それでも多数の指標を用いて14のヨーロッパの国の経済社会状態を数量的に比較して主として、その順位によって点数化しているの、総合点数が良いということ、1位になった項目が多いということは、それだけ福祉と生活の質の高いことを裏付ける一つの参考となるであろう。その総合結果は第1表のとおりであり、スウェーデンは総合得点で第1位、1位をとった項目は7項目で、これもデンマークと並んで第1位となっている。

スウェーデンが生活の質という観点からみて最も良い点をとっている主な領域は非労働(休暇)日数、労働時間の伸縮性、平均寿命、労組組織率等である。日本はこの「生活の質オリンピック」の対象とされておらず、アメリカとともに比較・参考のために数字だけあげられている。その

第1表 ビジョン誌による生活の質の国際比較
 ——総合得点と1位になった項目の数——

国名	総合得点	1位になった項目の数
スウェーデン	554	7
デンマーク	533	7
西ドイツ	516	5
オーストリア	500	2
ノルウェー	491	4
フランス	477	4
スイス	473	1
オランダ	453	1
フィンランド	431	2
イタリー	411	2
ベルギー	393	0
イギリス	381	2
スペイン	377	1
ポルトガル	288	0

Vision, July/August, 1978

(注)得点は14ヶ国中1位だと14点、14位だと1点となる。

目次

スウェーデンの福祉と生活の質
理事 丸尾直美... 1

昭和53年度研究月報目次一覧..... 4

研究所活動メモ(53年)..... 5

資料によると、日本も労災事故率、平均寿命、等で良い点をとっているが、欧米諸国と比べて今なお異質に思われる点もいくつかある。都市公園の一人当たり面積とか、下水道普及率とか休暇日数が欧米諸国に比べて極立って低いことはよく知られているが、そのほか、ビジョン誌の統計比較は、人口当たりの劇場数が少ない（その代りテレビの全国チャンネル数が世界一多い）こと、人口当たりの娯楽用ボートないしヨットの数、スポーツ・クラブに属している人口、家庭に人々を招待する機会など、総じて住環境と余暇の充足面で、日本は欧米諸国に比べて遅れていることを示している。

スイス・ユニオン銀行による賃金・物価 ・購買力の国際比較

このようにスウェーデンは生活の質指標の点ではすぐれているが、社会保障や環境の質や教育機会の均等化のために多大な資源を用いているためもあって、賃金と購買力でみるとアメリカ、カナダ、スイス、オランダ、等に及ばない。ことに再分配後の所得の購買力ではオーストリアや西ドイツにも及ばないものと推定される。スイス・ユニオン銀行が世界の41都市についての賃金・物価・購買力の比較（第2表）を行なっているが、それに

第2表 主要国の賃貸住宅家賃（家具付でない場合）の国際比較

	高クラス	低クラス
アムステルダム (オランダ)	220	49
ブリュッセル (ベルギー)	180	45
コペンハーゲン (デンマーク)	310	58
デュッセルドルフ (西ドイツ)	390	91
リスボン (ポルトガル)	160	37
ロンドン (イギリス)	320	74
ロスアンゼルス (アメリカ)	450	95
マドリード (スペイン)	290	55
ミラノ (イタリア)	230	51
モントリオール (カナダ)	710	119
ニューヨーク (アメリカ)	850	205
オスロ (ノルウェー)	400	85
パリ (フランス)	450	93
ストックホルム (スウェーデン)	250	60
シドニー (オーストラリア)	620	90
東京 (日本)	1,500	292
ウィーン (オーストリア)	320	69
チューリッヒ (スイス)	500	100

(注) チューリッヒの低クラスの家賃を100とした指数。
(出所) Union Bank of Switzerland, Prices and Earnings Around the Globe, 1978

よると、最高の名目賃金を保っている国はアメリカであり、実質購買力の最高もアメリカ、2位はカナダである。スウェーデンのストックホルムの賃金は名目では比較41都市の中で10位であるが、再分配後の賃金の実質購買力では、21位である。日本の東京は、名目賃金では17位であるが、物価水準が比較国中最高なので、実質賃金では再分配前でも後でも、いわゆる先進国とみなされている国の主要都市の中では最も低いという結果になっている。もっともこれは欧米的生活様式を想定したため、欧米人並みの住宅に住み、欧米人が食べるように酪農品を食べると想定したためでもある。たとえば欧米並みの住宅に住むと想定すると、日本の東京の家賃は、ストックホルムやロンドンの4～5倍であることをこの資料（第2表）に示している。

社会指標でみるスウェーデンの総合福祉水準

筆者も以前から、福祉水準の国際比較に興味を持ち、経済指標および社会指標を用いて福祉水準の国際比較を行なってきた。その結果によると、1960年代末の統計を用いて1970年に行なった主要7ヶ国（日本、スウェーデン、アメリカ、イギリス、西ドイツ、フランス、イタリア）の比較では、スウェーデンの得点が総合で第1位であり、日本は当時7ヶ国中最下位であった。（この論文は後に H. Simonis & U. E. Simonis, eds. Japan : Economic and Social Studies in Development, Otto Harrassowitz Wiesbaden, 1974 に掲載されている。）この結果は同盟（全日本労働総同盟）の福祉ビジョン（「70年代の生きがい保障」）でも確認されている。

これらの国々のほか、オランダ、ノルウェー、カナダを加えた比較を筆者は最近行なったが、その結果でも、スウェーデンは最も多くの指標について第1位を占めており、やはりスウェーデンが福祉水準の高い国だといえそうである。一方、日本のほうもその後、経済指標ではもとより、社会指標でみても大いに発展し、平均寿命、労働災害率、犯罪率等で最も良い成績を示している。唯、住環境と余暇の点では、依然として欧米の最先進諸国との間に距離があるように思われる。各指標についての日本の順位と、各指標についてトップの成績をとった国は第3表の示すとおりであり、スウェーデンは、比較した42指標のうち15の

指標で比較10ヶ国中最も良い成績を示している。

このように、社会指標等でみると、スウェーデンは福祉と生活の質という点で、総合的にみて世界で最も水準が高い国のように思われるが、唯、重視する領域いかにては、再分配後の可処分所得の購買力のように先進国の中では高くない項目もあるし、また、いわゆるアーミー指標と呼ばれる指標だけとってみると、スウェーデンは、離婚率が高く、労働者の欠勤率や離職率も高く、性病患者率、自殺率も欧米先進国の中では高いほうなので、社会病理が深刻な国だとの見方もある。一

方、この種のアノミー指標だけで見ると、日本は先進国中最も「健全」だと診断も下しうる。

このように、社会指標のような客観的にみえる指標を用いても、重点の置きどころや判断によって異なるが、おそらく客観的な言い方をすれば、スウェーデンはアノミー指標以外の領域では概して福祉と生活の質のすぐれた国であり、他方、日本はアノミー指標に関しては先進国中最も好績であるものと推定されるが、住環境と余暇および余暇充足のファシリティ（施設）等で劣っているといつてよいだろう。

第3表 社会指標による福祉水準の比較—日本の順位と各指標に関して最も成績の良かった国の名前

福祉ニーズ (主要な社会的関心)		福祉指標	日本の順位* (分母は比較した国の数)	比較した国の中の1位の国
経済的福祉	所得と資産の水準	+ 1人当り国民所得 (1977年)	7/10	スウェーデン
		+ 同税・社会保険料等控除後 (1977年)	3/10	アメリカ
	所得と資産の分配	- 10分位所得分布 (ジニ係数)	2/10	スウェーデン
		- 賃金格差 (企業別および男女別) + 労働分配率 (製造業)	10/10 9~10/10	スウェーデン またはフランス
所得と資産の安定	- 消費者物価上昇率 (1970~77年)	8/10	西ドイツ	
	- 失業率 (1970年代)	2~3/10	スウェーデン	
非ニーズ	生存保障	+ 社会保障給付費 {対国民所得比 (1974年) 国民1人当り (1974年)}	10/10 10/10	スウェーデン スウェーデン
		+ 社会福祉 {人口当り社会福祉ホームヘルパー数 (1973年) {人口当り老人ホーム定員数	10/10 10/10	スウェーデン デンマーク
	安全	- 人口当り自動車事故死亡率 (1974年前後)	1/10	日本
		- 人口当り労働災害死亡率 (1975/76年の平均)	1/10	日本
健康	- 人口当り火災事故 {死亡率 (1974年) 発生件数 (1974年)}	5/7 1/7	イタリア 日本	
	- 人口当り犯罪 {謀殺および同未遂 (1971/72年の平均) {強盗件数	3/10 1/10	ノルウェー 日本	
経済的福祉	環境破壊	+ 平均寿命 (1975年前後)	3/10	スウェーデン
		- 乳幼児死亡率 (1975年または1974年)	2/10	スウェーデン
	住環境の質	- 妊産婦死亡率 (1973年)	6/7	スウェーデン
		- 全結核死亡率 (1974年)	10/10	オランダ
福祉	環境の質	- 主要河川水質汚染 (溶存酸素量DO)	4~5/6	イギリス
		- 主要都市大気汚染度 {二酸化硫黄 (P P m) 一酸化炭素 (P P m) (主都のみ) {二酸化窒素	1/4 1/3 2/3	日本 日本 イギリス
	労働環境の質	+ 都市1人当り公園面積 (主都のみ)	10/10	スウェーデン
		+ 下水道普及率	8/8	イギリス
精神文化ニーズ	教育・文化・情報	- 住宅1部屋当り人数	10/10	イギリス、アメリカ、カナダ
		+ 1戸当り室数 (世帯人数による調整後)	7~8/9	イギリス
	疎外・アノミー現象	+ 持家率	3/9	アメリカ
		+ 水洗便所普及率	10/10	イギリス
海外福祉のための協力	- 年間労働日、労働時間	10/10	スウェーデン	
	- 労働争議による損失日数 (雇用労働者数当り)	3	西ドイツ	
海外福祉のための協力	海外福祉のための協力	+ 人口当り高等教育在籍者数	3	アメリカ
		+ 人口当り電話台数	4	アメリカ
海外福祉のための協力	海外福祉のための協力	+ 人口当り日刊紙発行部数	2	スウェーデン
		+ 人口当り書籍発行部数	9/10	スウェーデン
海外福祉のための協力	海外福祉のための協力	+ 人口当りテレビ台数	8~9/10	アメリカ
		- 自殺率 {人口当り自殺率 (1974年) {老人自殺率	7 10	イタリア イギリスまたはイタリア
海外福祉のための協力	海外福祉のための協力	- 離婚率	1	日本
		- 労働者無断欠勤率 (推定)	1	日本
海外福祉のための協力		+ 発展途上国への政府援助の対GNP比	9	スウェーデン

(注) *順位は福祉の観点からみて好ましいと仮定的に想定した基準からみた順位である。

お知らせ

大平理事長 総理大臣ご就任

大平理事長にはご高承のとおり12月7日総理大臣に就任されました。ここに心より祝意を表します。

なお、大平理事長には、去る11月27日当研究所理事長辞任の意を示され、12月20日の研究所理事会で承認されました。

平田富太郎理事 勲一等瑞宝章ご受章

当研究所理事平田富太郎先生には、11月3日勲一等瑞宝章を受章されました。ここに心よりご祝詞申し上げます。

油谷精夫監事 勲三等瑞宝章ご受章

当研究所監事油谷精夫先生には、11月3日勲三等瑞宝章を受章されました。ここに心よりご祝詞申し上げます。

西村光夫理事 所長職ご退任

平田富太郎理事 所長ご就任

当研究所設立以来所長としてその発展に貢献されました西村光夫理事には、予て設立10周年を経過しました機会にその所長の職を退く旨表明しておられましたが、その後任として平田富太郎理事の所長就任のご内意を得ましたので、12月20日の理事会においてその更迭が承認されました。ここに西村前所長の永年のご功績に対し心より敬意と謝意を表しますと共に平田新所長の今後のご指導を懇願いたします。

昭和53年度研究月報目次一覧

No. 1

1978年を迎えて……………	所長	西村光夫
スウェーデン政局と原子力発電問題と自由党党首の離任……………	理事	高須裕三
変革期に立つスウェーデン研究……………	評議員	菊池幸子

No. 2

経済危機に処する福祉国家スウェーデン……………	理事	高須裕三
スウェーデン王立図書館（寄稿）……………		三浦永年氏

No. 3

スウェーデンの労働者教育……………	理事	丸尾直美
スウェーデンにある北楯文庫（寄稿）……………	元国立国会図書館副館長	鈴木平八郎氏
スウェーデンよりの便り……………	評議員	福田雅一

No. 4

「王位継承法」改正議決さる……………	理事	高須裕三
世論調査：社民党優勢……………	理事	高須裕三
北欧留学日誌（KFスカラシップによる協同組合の研究）(1)……………	評議員	福田雅一

No. 5

スウェーデンにおける経営参加の実態……………	評議員	永山泰彦
スウェーデン留学研究者からの便り（スウェーデン生活のメモ）		

No. 6

スウェーデンにおける幼児保育の歴史(1).....埼玉県立厚生専門学院 荒井 洵

No. 7

スウェーデンに留学して

——教育問題についての所見(寄稿).....慶応義塾大学文学部助手 石崎秀和氏

スウェーデンにおける幼児保育の歴史(2).....埼玉県立厚生専門学院 荒井 洵

スウェーデン社会福祉審議会の最終答申書.....理事 小野寺 百合子

No. 8-9

最近のスウェーデン政治情勢——とくに原子炉問題を中心として.....理事 高須 裕 三

世界社会学大会がウプサラ大学で開催される.....評議員 菊池 幸子

スウェーデンにおける幼児保育の歴史(3).....埼玉県立厚生専門学院 荒井 洵

No. 10

スウェーデン10月の政変.....理事 高須 裕 三

スウェーデンにおける土地取得法について.....顧問 小野寺 信

Current Sweden の目次一覧(3)

No. 11

スウェーデンの美術教育とその背景(寄稿).....阿部 靖子氏

スウェーデンの家庭生活(見学旅行の報告).....秋元 薫氏

No. 12

スウェーデンの福祉と生活の質—各種指標による国際比較.....理事 丸尾 直美

活動メモ 53年

1. 20 ルンド大学前助教授スヴェン・リーデンフェルト氏と「人間関係と生産性」のテーマで研究所幹部討論

1. 21 ストックホルム大学国際教育問題研究所所長トールステン・フセーン教授夫妻と西村所長、中嶋教授懇談

1. 27 日瑞共同研究(経済成長と福祉)打合会

2. 24 53年度の厚生省厚生科学研究補助の申請として、「福祉政策の総合化」の研究をテーマとする説明書を提出

3. 23 厚生省厚生科学研究補助申請につきヒヤリング実施

4. 20 厚生省官房企画室へスウェーデンの福祉、医療に関する情報資料の提出開始

4. 21 健康保険組合連合会石本研究室長を訪問、スウェーデンの健康保険関係資料の集収につき打合

5. 15 協同組合研究会開催(於、家の光ビル)「北欧の協同組合活動」と題し福田雅一研究所評議員講話(大使館報道、情報担当官ペール・フリ

ッツオン氏挨拶)

5. 16 本年度第1回スウェーデン語講習会開講(当初以来通計37回目)

5. 22 西村所長、フリッツオン大使館報道、情報担当官と研究所運営につき懇談

6. 9 西村所長が来日を斡旋したスウェーデンフォークダンスチーム来日

6. 19 教育研究会開催「ウプサラ大学に2年学んで」と題し、石崎秀和慶応義塾大学文学部助手講話

6. 26 当研究所の定例理事会、総会開催(事業計画等審議)

西村所長、大使館にウーデヴァルスウェーデン大使を訪問、研究所の状況を報告

7. 3 経済・産業研究会開催、「スウェーデンの経済・財政の現状と見通し」と題し、大使館ファイナンス・カウンセラー、クルト・ボリー氏講演

7. 20 ソーシャルワーカーのマーガレッタ・リリエベック女史の要望に応じ「日本のソーシャルワーカーの教育の研究」に関し、厚生省都民生局等紹介

8. 1 福祉国家研究会開催(厚生省助成「福祉政策の総合化」について、第一回)

8. 23 研究所創立10周年記念事業のスウェーデンに関する高校生論文特賞入賞者秋元薫氏（都立戸山高校3年生）が、東京新聞、スカンジナビア航空およびスウェーデン政府の援助により、1週間の予定でスウェーデン見学に出発

8. 26 福祉国家研究会開催（厚生省助成「福祉政策の総合化」について、第二回）丸尾、小野寺研究所理事の中間発表

9. 20 都民生局主催講演会で「スウェーデンの社会福祉」と題し、小野寺百合子研究所理事講演

9. 23 西村研究所所長 スウェーデンへ出張（日瑞基金・瑞日基金合同会議出席と当研究所の現地関係者と情報交換のため）

9. 25 本年度第2回スウェーデン語講習会開講（当初以来通計38回目）

10. 23 教育研究会開催（厚生省助成「福祉政策の総合化」について、第三回）「教育と福祉政策の総合化」と題し、中嶋博研究所理事講話

10. 30 全日本労働総同盟の援助により、スウェーデン社会福祉審議会答申「社会サービスと社

会保険補足給与」の小野寺百合子当研究所理事による翻訳、出版決定す

10. 31 昭和54年度スウェーデン派遣研究員の募集を締切る。応募計16名。直ちに選考委員による書類選考を開始す

11. 13 西村所長、小野寺理事が大使館報道・情報担当官ペール・フリッツオン氏に事業状況を報告す

11. 24 スウェーデン産業連盟会長イペロート氏との技術交流懇談会（経団連主催）に西村所長出席し、日瑞基金による技術交流委員会の発足と事業計画につき説明す

12. 18 昭和54年度派遣研究員の書類選考とまり、面接選考への出席者5名を決定す

12. 20 研究所臨時理事会開催、大平理事長の退任、西村所長退任、平田富太郎理事の所長就任の承認等を決議す

12. 21 西村、小野寺両理事、理事会の結果等をスウェーデン大使、フリッツオン報道・情報担当官に報告し、当研究所の活動事情に関し懇談す

再版のお知らせ

至誠堂新書 58

福祉とは何をする事か

スウェーデンを場として福祉国家の現実を探り、その財政、経済システム、都市対象、教育問題、価値観の変化等、多面的アプローチ

刊行の辞	西村 光夫
序	高須 裕三・丸尾 直美
第一章	スウェーデン福祉国家の社会経済史的背景
第二章	選ばれた体制
第三章	スウェーデン式ウエイオブライフ
第四章	福祉社会の担い手たち
第五章	福祉政策と年金
第六章	教育による自由と平等の推進

執筆者（執筆順）	
高 須 裕 三	
丸 尾 直 美	
加 藤 良 雄	
永 山 泰 彦	
河 野 道 夫	
内 藤 英 憲	
菊 池 幸 子	
小 野 寺 百 合 子	
中 嶋 博	
荒 井 洵	

スウェーデン社会研究所編

350頁定価980円

〒101 東京都千代田区鍛冶町1-3 電話(03)256-8121 振替東京97579 至誠堂